



館長だより

山形県産業科学館

令和 6 年 8 月 2 1 日 (水)

発行 館長 加藤 智 一

お盆と言えば・・・

私が小学生の頃、町内に子どもが沢山いて、お盆になると「お寺の境内で盆踊り」というのが当たり前だったのですが、コロナ以降、今年も含めて盆踊りの気配は全くなくなってしまいました。少子化の影響で、子ども育成会も機能しなくなってきたのかもしれないね。ところで、私が小学生の頃、私の町内ではなぜか盆踊りは花笠おどりでした。だから私の町内の子は全員花笠踊れます。

さて、この盆踊り、調べてみると、一説では平安時代に空也上人がはじめ、鎌倉時代に一遍上人が全国に広めた「踊り念仏」が起源だとか。そして、室町時代から江戸時代にかけて様々な民間習俗を取り入れて発展し今日に至るわけです。広い意味で、山形の花笠おどりも、土佐のよさこい祭りも、徳島の阿波踊りもみんな盆踊りということではよろしいのではないかと思います。

ところで、皆さんの地域では、いつお墓参りに行きますか。山形では13日というのが一般的ですね。米沢に以前住んでいた時は、お墓の周りをそれは賑やかに電灯で照らして、夜お参りするのにはビックリしました。地域それぞれ色んな風習があります。13日に先祖の霊をお迎えし、15日の晩に盆踊りをして、16日に精霊送りをするというのが、全国的に一般的なお盆の風景だったように思います（思い込みでしょうか）。

そして、お盆と言えばもう一つ忘れてはいけない夏の娯楽。そう、「怪談」です。日本三大怪談と言えば、落語や講談でお馴染み「四谷怪談」「皿屋敷」「牡丹燈籠」ですね。今の若い人たちは馴染みがないのかな。幽霊のきめ台詞「うらめしや」。これは非業の死を遂げたため、それを恨んでいることを表しています。「四谷怪談」でも「皿屋敷」でも「牡丹燈籠」でも、恨みをもった幽霊が大事な場面でお使いになられています（おちょくった表現がばれて、崇められるといけないので敬語）。内容を理解されていない方のために、要点をおさらいしておきましょう。

（以下ネット情報 あしからず）

1 「四谷怪談」 主人公は「お岩」さん。夫に裏切られ顔の崩れる薬を飲まされて死んでしまったお岩が、幽霊となって復讐をとげる話。元禄時代の事件をもとに四代目鶴屋南北が「東海道四谷怪談」を執筆し、歌舞伎に仕立てて有名になりました。その

後、初代三遊亭圓朝が落語に仕立てるなど、さまざまなバリエーションがあります。実際のお岩は夫婦仲も良く、近所でも評判の女性だったようで、お岩にあやかるため、四谷には「お岩稲荷」が建立されています。

2 「皿屋敷」 主人公は「お菊」さん。奉公人のお菊が、家宝の皿を割ってしまったことを責められ井戸で死んだ。すると、お菊の幽霊が夜な夜な「一枚、二枚……」と恨めし気な声で皿を数えるようになったという話で、もとになった実話があるといわれています。大阪で歌舞伎に仕立てた「播州皿屋敷」が、江戸では番町を舞台にした「番町皿屋敷」になるなど、各地にいろいろな皿屋敷の話があります。

3 「牡丹燈籠」 主人公は「お露」さんです。ある男に恋い焦がれて死んだお露は、牡丹燈籠を灯してその男のもとへ通い逢瀬を重ねます。しかし、幽霊であることがばれてしまい、幽霊封じをした男を恨んで殺すという話。中国の小説をヒントに、初代・三遊亭圓朝が落語に仕立て、歌舞伎でも人気の演目になりました。

どいつもこいつも悪いのは男ばかりだ。ン、今はそうじゃない？

